

5. 平成30年度 学校目標 全日制

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程、学習指導	<p>① 生徒の意欲を高め、進路選択に結び付く教育課程の改善に取り組む。</p> <p>② ボランティア活動を充実させ、生徒の主体的な行動の促進を図る。</p>	<p>① 生徒の多様な進路希望に対し、生徒にわかりやすい総合学科としてのカリキュラムの充実を図るようカリキュラムマネジメントを進める。</p> <p>② 主体的・対話的で深い学びの授業づくりを進める。</p>	<p>① 生徒一人ひとりの自己実現・進路実現に向けた各種ガイダンスを実施し、その中で把握された課題を解決するために、講座の充実・精選を行う。</p> <p>② 進路希望に対応して、自主的積極的に課題に取り組めるよう、グループ学習や発表型授業を積極的に行い、その成果を地域に発信していく。</p>	<p>① 「履修カイダンス」の改訂作業を行う中で、設置講座の内容についての協議が十分行われたか。</p> <p>② 各教科で発表型授業・グループ学習を授業に取り入れることにより、生徒の授業参加がより主体的になったか。</p> <p>③ 授業研究の成果を地域に発信することができたか。</p>
2	(幼児・児童・) 生徒指導・支援	<p>① 部活動の活性化を通して、責任感や連帯感の涵養を図る。</p> <p>② 教育相談コーディネーターを活用した生徒一人ひとりへの支援体制の充実を図る。</p>	<p>① 日常的な生活指導を丁寧に行い、学校生活を自ら律することのできる生徒を育成し、問題行動の発生を未然に防止する。</p> <p>② ケース会議など生徒の個別支援に関わる会議を開催し、専門職や外部機関との連携を深める。</p>	<p>① 生活指導をできるだけ他律的な手法によらずに行い、生徒自らが高校生らしい生活態度で日々を送ることができるよう指導する。</p> <p>② 日頃から生徒一人ひとりの変化に気づき、生徒の情報交換や支援体制を充実させるために、教科担当者会議および年次会を定期的で開催する。SC、SSW、養護学校等の専門職を活用し、ケース会議の開催や個別支援シートの作成を行う。</p>	<p>① 服装や頭髪の指導後に生徒自らが生活態度を改善するような姿勢がみられたか。また、問題行動の発生は減少したか。</p> <p>② 教科担当者会議を年1回、年次会を月1回定期的で開催し、SC、SSW、養護学校等を活用した生徒の個別支援を行う機会が増加し、ケース会議の開催や個別支援シートの作成ができたか。</p>
3	進路指導・支援	<p>① 「産業社会と人間」を基盤とした、生徒一人ひとりの進路実現に結び付く進路指導・支援体制の充実を図る。</p>	<p>① 進路実現を支援するため、進路情報の発信、分野別の対策講座、上級学校訪問などの進路支援の取組の更なる充実を図る。</p>	<p>① サポートティーチャーを活用した進路支援の取組を推進するとともに、公務員志望生徒・医療看護系志望生徒への支援の充実、学力育成のためのスタディサプリの受講者増を図る。</p>	<p>① アンケートの結果、本校の進路支援の取組が生徒の満足できるレベルであったか。</p> <p>① 公務員対策講座、医療看護系志望者対策講座、スタディサプリの受講者が増加したか。</p>

			②授業や部活動、学校行事の運営を通じてリーダーの育成と社会性の向上を図る。	②地域の幼稚園生、小学生、中学生などに向けたボランティア活動の授業や部活動等の機会を積極的につくり、その活動を通じたリーダーの育成を図る。	② 生徒による授業評価や授業担当者による評価点が向上し、また校外学習など体験活動の参加者が昨年より増加したか。
4	地域等との協働	① ボランティア活動を核とした地域貢献を図る。 ② 地域・社会との相互交流による教育の推進として、「南が丘地区豊かな心を育む協議会」との幅広い連携と協働を図る。	①ボランティア活動、あいさつ運動を核とした地域との連携を深める。 ②地域の小・中学校や自治会と連携を深め、教育活動の充実を図る。	①ボランティアバンクを活用して積極的にボランティアへの参加を図るとともに、地域のあいさつ運動においても、地域の方々とのおいさつを通して、生徒一人ひとりのコミュニケーション能力の育成を推進する。 ② 南が丘地区にある幼稚園・小・中学校との連携をさらに推進し、地域の自治会等の行事に積極的に参加するなど、教育活動の充実に向けて連携を深める。	①ボランティアに参加する生徒の延べ人数が昨年度より増加し、かつ参加する生徒の意識の向上が図れたか。 ② 生徒の教育活動に対して、地域の方々からの感謝の言葉や、自治会等の協力的な支援が得られたか。
5	学校管理、学校運営	① すべての職員が教育環境の変化に迅速に対応し、前向きに課題に取り組む学校文化を形成する。 ② コミュニティ・スクールを中心とした学校運営への変換を図る。	①創立10周年記念事業を組織的に準備し、生徒・卒業生・地域の方々にとって、意義あるものとして実施する。 ②事故不祥事防止のための業務マニュアルを不断に見直す。 ③学校と保護者や地域の方々力が合わせて取り組むコミュニティ・スクールのシステムを構築する。	①創立10周年事業についての職員の協力体制を築き、実行委員会を中心とした計画的組織的に業務を進める。 ②成績処理支援システムを用いた成績処理・帳票管理において、手順・点検を確認し、必要に応じて再整備を図る。 ③地域ボランティア部会とキャリア・連携部会、評価部会の3つの部会を設置し、地域・保護者と協力して、教育活動を展開する。	①創立10周年事業を計画的組織的に準備実行することができ、生徒・卒業生・地域の方々の意義あるものとなったか。 ②成績処理支援システムの運用において、手順・点検体制を整備できたか。 ③部会の活動において、運営協議員と一般職員が、授業や特別活動の内容について直接協議し、年3回以上部会を運営できたか。